

2025 年度

ネバーランドデイサービスセンター事業計画書

- ＜事業の種類＞ 介護保険法による通所介護事業
介護保険法による介護予防通所介護事業（合計定員 40 名）

＜運営方針＞

在宅の要支援者・要介護者に対して、意欲・自尊心の向上、心理的安定への働きかけを行いながら、健康状態の把握・維持、生活機能の維持・向上、社会的孤立感の解消、家族の負担軽減等を図る。また、自立支援・重度化の予防により、在宅での生活が継続でき、利用者の自己実現の達成を支援する。

＜SWOT 分析＞

【強み】 内的要因

- イ) 利用者の在宅生活が継続できるよう個別の課題改善に向けての対応に努めている。
- ロ) 職員が仕事と子育て等、家庭との両立が可能となる環境が整備されている。
- ハ) 施設が明るく開放的な環境にあり、屋内で安全に歩行ができる広さもある為、活動量が確保しやすい。
- 二) 利用者間のコミュニケーションが良好で活発である。
- ホ) 男性利用者も多く、利用に抵抗のある男性もサービス利用に繋がっている。
- ヘ) 施設手作りのお弁当の持ち帰りサービスを実施しており、食事の準備が困難な方の低栄養の予防ができ、また、家族の負担軽減となり喜ばれている。
- ト) 特別養護老人ホーム、小規模多機能ホーム、グループホームなど併設型のデイサービスである。
- チ) 利用者のデータ入力など IT 化により業務負荷が軽減され、サービスの質が向上できている。（紙媒体への記録→電子媒体への記録に移行することで業務の効率が上がり、コミュニケーションの機会が増えるなど利用者に関わる時間が増えた）
- リ) 感染症や災害が発生した場合であっても、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供されることが求められている。指針とマニュアルの策定 職員等を対象とした研修の実施等、安心して受け入れできる環境が整備されている。また、平時から医療機関と連携し、助言や支援を受けることができる仕組みが構築できている。
- ヌ) 身体拘束廃止、虐待防止、事故防止など各種委員会による研修を受講しており、利用者の安全、幸せや喜びに繋がるケアについて、チームでより良いケアを目指し実践できている。

【弱み】 内的要因

- イ) サービス提供体制強化加算が算定できる基準に達しておらず減収に繋がっている。（介護職員の介護福祉士資格取得率が低い。勤務年数が少ない等）
- ロ) 個別機能訓練加算について、看護職員の不足により上位の加算が算定できていない。

- ハ) デイサービスは数が多く競合する事業所が多い。
- ニ) 夜勤手当がなく賃金が安くなる傾向もあり職員の人材確保が難しい。

【機会】 外的要因

- イ) 少子高齢化や女性の社会進出などの社会変化もあり、親と同居する世帯が減少している。自宅で親を介護する従来のスタイルから必要に応じて介護サービスを利用するというスタイルが一般的となり、利用者が在宅での暮らしを継続しながら、サービスを利用できる通所介護の需要は増している。
- ロ) 2025年以降は団塊の世代が後期高齢者に移行する。そのため、介護保険サービスの入り口である通所介護の利用を希望される方の増加が見込まれる。
- ハ) 介護保険制度施行後は、より利用者のニーズに合った内容にしたいと取り組むデイサービスが増えてきた。これからは利用者それぞれのニーズにこまやかに対応することが求められる。

【脅威】 外的要因

- イ) 予防事業の要介護者利用可能により、将来的に軽度者の総合事業への移行が考えられる。場合によっては介護報酬の引き下げが考えられるため、事業所の運営がより厳しいものになることが懸念される。
- ロ) 感染症の発生により職員不足や休業による減収が予想される。
- ハ) 介護報酬改定により、介護サービス利用費の2割を自己負担する高齢者の対象を広げる方針が示されており、利用者負担が増えることでサービスの利用頻度が減少する可能性が懸念される。

<事業計画>

(利用者の個別ニーズに対応したケアを実施し、自立に向けた支援を行う。)

① 入浴

在宅において入浴が困難な方や、安全が確保できない方に対して、見守りのある環境で困難動作の介助を行い身体を清潔に保つ。また、気持ちよく入浴して頂くことで、心身のリフレッシュを図る。加えて、在宅で安全な入浴が叶うよう動作指導や助言等も行う。
一般浴と椅子浴があり介護度が高い利用者にも、安全に入浴が実施できる。

② 排泄

利用者の排泄のタイミングに留意し、その人の有する能力を活用しながら困難動作の介助を行う。

③ 食事

季節を感じられるメニュー・栄養バランスを考えたメニューを提供し、食べる事の楽しみを感じて頂きながら健康状態の維持を図る。
また、利用者の嚥下能力に合わせた形態の食事を提供し、必要に応じて困難動作の介助を行う。

④ 機能訓練

自立支援・重度化防止に向けて、現状の課題を踏まえ、生活動作に着目したプログラムを作成

し、マシンリハビリ・各種体操・各種訓練を実施する。身体機能の自立だけが目的ではなく、身体機能のアップにより利用者の自己実現や豊かな生活に繋がることを目的に身体機能の維持向上を図る。脳トレーニング・デュアルタスク(二重課題)を実施し認知症予防を図る。利用者にわかりやすく簡単なリハビリ評価表を定期的に発行し、モチベーションのアップを図る。

⑤レクリエーション

集団で他者とのコミュニケーションを図りながら、楽しく活気ある活動とし、運動量を確保する。個々に応じたレクリエーションや、洗濯物たたみ・食器洗い・お茶配りなど役割を持って頂くことで、ひとりひとりが生き生きと過ごせるよう配慮する。

<年間行事>

4月	お花見	10月	運動会
5月	新茶を楽しむお茶会	11月	コスモスドライブ
6月	アジサイドライブ	12月	クリスマス会
7月	七夕会	1月	初詣・福引大会
8月	風鈴・ちょうちん作り	2月	節分の豆まき
9月	敬老会	3月	ひな祭り

<日課>

時 間	項 目	内 容
8 : 0 0	迎え	乗車前に検温 消毒を実施。
9 : 0 0	到着	手洗い うがい 消毒
9 : 0 0	健康チェック	血圧・体温・脈拍の測定及び、日々の変化に留意し当日の体調のチェックを行う。
1 0 : 0 0	入 浴	身体状態に合わせて、一般浴・椅子浴にて実施。
	脳トレーニング 個別機能訓練 個別レクリエーション	脳トレプリント パズル等 マシントレーニング (各個別機能訓練計画メニュー) 塗り絵、硬筆練習、オセロ・トランプ等のゲーム 生け花、雑誌
1 1 : 4 5	新聞読み	時事情報の提供を行い、社会への関心・意識を図る。
1 1 : 5 5	食前体操	スムーズに食事摂取ができるよう上肢 手指 嚥下体操を行う。
1 2 : 0 0	昼 食	栄養バランスを考えたメニューや季節感のある食事を提供し食べる楽しみを感じながら栄養の確保を図る。

13:00	集団レクリエーション	集団でゲームや活動を行い、他者とのコミュニケーションの中で楽しみながら運動を行う。
14:00	個別機能訓練	転倒予防体操 歩行練習（各個別機能訓練計画メニュー）
15:00	喫茶 手作業 カラオケ	コーヒー、紅茶等を飲みながら談笑や季節に応じた作品づくり、カラオケなどを行い、他者との交流を図る。
16:00 16:30	ラジオ体操 送り	ラジオ体操。 ご自宅へお送り。

<年間目標>

利用人員

通所介護・総合事業 平均利用人数 20人/日

2024年1月末現在 平均利用人数 25.4人/日

(→内訳 要支援2.8人/日 要介護22.6人/日)

※登録済利用者の内 1/10 現在

目標設定の根拠

- ・現在、定員40名で運営しているが、職員の確保が難しく、利用者ニーズに応えるだけでなく、通常業務も十分に行うことが厳しくなっており、職員への業務の過負荷も懸念される。利用者の安全を守りつつ、職員の業務負担を軽減させる為にも定員を半分にまで縮小する事で職員の離職を防ぎ、利用者のニーズに応じたケアが出来るようにする。そして、利用者個々に関わる時間を確保する事で、満足度の高いケアを実施し、目的を持ってデイサービスを利用してもらえる環境作りを目指す。
- ・前年度は新規・既存の利用者とも利用日の追加を希望されることが多く、欠席者も少なかった。しかし、利用者全体の高齢化に伴い、けがによる入院や他施設入所が決まるケースはより増加している。今後は職員間、ケアマネージャーだけではなく、家族との情報共有を今まで以上に密に行いながら利用者の身体機能、健康状態を維持することにも注力する。

<目標達成の為の具体策>

① 利用者満足度の向上

本人の希望、ニーズ、そして家族の意向も重視し、通うことでそれらを達成するには何が必要かを見極めながらサービスを提供する。例えば、普段の様子から『何をしているときに楽しそうか』『これまでの人生で何をしてきたか、何が得意か』などの聞き取りを行い、スタッフがその人に合った活動をすすめる。参加の有無は本人に委ねて無理強いせず、自分らしく、気軽に、楽しみを持って通える環境作りに努める。課題については昼礼時等でミーティングを随時開く。情報を共有し、価値あるアイデアや提案を引き出すことでサービスの質の向上を目指す。

② 入院の予防による稼働率の上昇

管理者が利用者ごとの食事量、バイタル、排泄、言動などの情報を総合的に管理し、利用者

の状態に変化があれば早期にケース検討会を行う。早期発見・早期対策を実施し予防可能な入院(転倒骨折、肺炎(誤嚥性肺炎)、尿路感染(腎盂腎炎)など)のリスクを可能な限り減らす。

《転倒骨折予防》利用者が歩行しやすい環境の設定。アセスメントの強化。必要に応じて見守り支援の導入など。

《誤嚥性肺炎予防》食事形態や水分のトロミの見直し、食事時の姿勢・車椅子のポジショニングの再確認、口腔ケアの方法の見直しなど

《尿路感染症予防》排泄ケア時間・方法の見直し、水分摂取量の見直しや方法の再検討など

③ 加西方面利用者の新規獲得

(富田校区全域、山下町、北条町黒駒)

2023年から営業エリアを拡大。加西方面の利用者が増加してきた。

- ・新規取引居宅への営業を行い、加西エリアの利用者を獲得する。
- ・現取引居宅へ加西エリア受け入れの案内を行い利用者を獲得する。

④ 介護支援専門員・地域との連携

- ・利用者や家族の意向を汲み取り、課題の把握と改善に向けたケアを介護支援専門員と密に連携をとりながら実施する。成果を出すことで介護支援専門員からの信頼を得、積極的な紹介に繋げる。
- ・利用者に少しでも気になる様子があれば、家族に状態の報告を密に行い、必要に応じて様子観察や早期受診等協力を仰ぐ。
- ・送迎時等、家族や地域の方達との挨拶等、地域住民との交流を図り、職員ひとりひとりが介護の相談窓口として対応できるよう努める。

⑤ 活気ある個別機能訓練・他者交流

- ・一人ひとりの症状、目的に合わせた個別プログラムを立案し、利用者が意欲的に楽しみながら行えるリハビリや訓練を提供することで、利用者の孤立感の解消や心身のリフレッシュ、残存機能の維持向上を図る。

⑥ 職員の資質の向上

- ・認知症、健康体操、介護技術等のDVDを回覧し各自知識を深める。利用者のニーズに即したケアとは何かを考え、それを実践する。

(例：利用者が楽しく取り組むことができ、機能維持に効果的な健康体操。多人数ばかりではなく、個別でも楽しめるレクリエーションの提案などを日々更新する)

- ・施設内研修への積極的な参加を呼びかけて学びを深めることで、利用者本位のケアを実践できる人材を育成する。
- ・管理者は職員が個々の強みを活かし自信をもって働けるよう、それぞれに応じた外部研修の参加を提案する。
- ・3Mを削減するために職員全体で業務の見直しを行い、手順や役割、マニュアルを再検討する。業務改善、効率化を行うことで利用者にとって一貫性があり円滑なサービスを提供する。職員にとっても気持ちよく働ける環境を皆で考える。

※3M 【ムリ】フロアに誰もいない時間帯があるなど

【ムラ】特定の職員への業務の偏りなど

【ムダ】慣例で実施しているが本来は不要あるいは簡略化できる業務など